

都留の歴史(1)

市域における最初の先住者

昭和五十五年よりスタートしました市史編纂事業は、資料所在目録七集、資料編六冊、通史編一冊を刊行し、この度完了することになりました。

そこで、今月から十二回にわたって、これまでの市史編纂事業の成果を踏まえて、本市の歴史をひも解いて行きたいと思います。

今回は、第一回目として、都留市域の最初の先住者について、紹介します。

約二百万年以前の更新世に現世人類(ホモ・サピエンス)が出現し、最初に形成された人類の文化を旧石器文化、その時代をヨーロッパでは旧石器時代と呼んでいます。

日本列島でも、戦後間もない昭和二十三年、相沢忠洋氏によって群馬県岩宿遺跡が発見され、縄文時代以前の文化の存在が確認され、旧石器時代における人類の棲息が明らかとなりました。

その後、関東地方を中心としてローム層と呼ばれる赤土(火山灰土)の中から石刃、ナイフ形石器、槍先形先頭器(石槍)などの打製の旧石器が出土し、次々と更新世に属する遺跡が発見され、日本列島



います。

現在では絶滅した北方系のマンモス象、南方系のナウマン象、オツノジカ、毛サイ、などの大形哺乳動物が棲息し、先縄文人の食料の対象とされました。先縄文人は打製石器を用いての狩猟採集生活を営んでいたのです。

都留市域は、富士山の東麓にあたり、桂川の形成する溪谷と森林に囲まれた豊かな自然が展開し、動物の棲息条件に恵まれた地域であったと考えられます。この時代にはこうした水と食料に恵まれた豊かな自然環境を求めて人類も移住していききました。

現在までのところ、市内において先縄文時代の遺跡は二か所で見られています。

その内のひとつが、菅野の道坂トンネル手前の崖で発見された一杯窪遺跡です。ここからは、石器製作址と考えられる遺構が発見され、そこから石器の素材となる多量の縦長の剥片とその母岩である石核などが出土しました。この遺跡は放射性炭素による年代測定によると約三万二千年前という年代が出されています。

最古の先住者たちが、菅野川の最上流で、石器の材料となる原石を拾い、それを縦長の剥片に加工していたことが、明らかになりました。

詳細については、資料編「地史・考古」、通史編をご覧ください。

文化振興係

第三回都留市

ふれあい全国俳句大会開催

都留市は天和二年、江戸の大火によって家を焼かれた松尾芭蕉が、約半年間流寓の生活を送り、蕉風俳句への開眼を果たした地です。

当日投句入賞者の発表・表彰

3時40分

同選評 福田甲子雄先生

4時10分

閉会 4時30分

当日投句の選者は次の先生方です。

小林波留・志村ささを・堤 高嶺・

幡野岳稜・廣瀬直人・福田甲子雄・

松川樹海・山本琴嶺

(敬称略・五十音順)

俳句講演会

本大会応募句の選者であり、NHK俳句教室でもおなじみの金子兜太先生(現代俳句協会会長)をお招きして、講演会を開催いたします。

開催日 俳句大会当日(5月3日)

時間 2時10分～3時40分

演題 「自然と人間」

問合先 文化振興係

市制協賛

第45回天真書院展

文化庁後援

第62回書壇院全国展

〔一般・学生〕 出品作品

・他多数展示

日時 4月13・14日

午前9時～午後9時

(最終日は午後8時迄)

場所 文化会館3階

手話初級講習会

期間 5月7日～8月27日

午後7時～9時

毎週火曜日

場所 文化会館

講習料 無料

問合先 谷内 ☎(43) 3494